



第 14 回世界仏教婦人会大会を京都で

きたむら まちこ
北村 眞智子

2011(平成 23)年、親鸞聖人 750 回大遠忌法要にあわせて第 14 回世界仏教婦人会大会を開くことができますことに、いま大きな喜びと不思議なご縁を感じております。

「世のなか^{あんのん}安穏なれ」のスローガンのもとに世界の仏教婦人会会員が一同に集^{つど}うことは大きな意味があります。50 年に一度の大遠忌の仏縁をいたくなかで、すばらしい出会いがひらかれ、一味の信心の喜びをともにすることができることを思い、今から夢がかけめぐります。参加者は国内外より 5,000 人を予定しています。内訳は海外（北米開教区、カナダ開教区、ハワイ開教区、南米開教区）より 1,500 人、日本国内より 3,500 人で、大会は、①親鸞聖人 750 回大遠忌法要への参拝、②世界仏教婦人会大会への参加、③国内外の会員相互の交流、の 3 本の柱のもとに開催されます。私たち 31 教区から選出されている評議員は、すでにカウントダウンが始まっている現在、一丸となって世界大会の準備に取り組んでいます。

ここで仏教婦人会総連盟の歩みの概略を示して、180 年におよぶ先人の熱い思いを振り返っておきます。

1832(天保 3)年

第 20 代^{こうによしようにん}広如上人が全国各地に散在していた「尼講」を組織化し「^{さいしょうこう}最勝講」創始。

1904(明治 37)年

仏教婦人会の結成を奨励し「婦人会概則」を發布。

1907(明治 40)年

本山に仏教婦人会連合本部を設置。総裁に第 22 代^{きょうによ}鏡如上人の裏方^{かざこ}籌子さま、本部

長に^{くじょうたけこ}九条武子さまが就任。

1911(明治 44)年

籌子さまご往生。仏教婦人会の活動を武子さまが引き継がれる。武子さまは以後、京都女子高等専門学校のご設立にご尽力。1923(大正 12)年の関東大震災では献身的な救援活動をされる。1928(昭和 3)年 2 月 7 日にご往生。九条武子さまの遺徳を

讃^{たた}えて毎年、この日を「如^き月^さ忌^ぎ」として法要がいとなまれている。

1948(昭和 23)年

「仏教婦人会総連盟」の名称で仏教婦人会活動が再開。

1951(昭和 26)年

仏教婦人会総連盟第 1 回全国総会を阿弥陀堂で開催。

1961(昭和 36)年

親鸞聖人 700 回大遠忌法要にあわせて第 1 回世界仏教婦人会大会を開催。この時に「浄土真宗本願寺派世界仏教婦人会連盟」の結成が宣言される。

1965(昭和 40)年

ニューヨークで第 2 回世界仏教婦人会大会があり、この大会で「ダーナの日」が制定される。

1970(昭和 45)年

京都国際会館で第 4 回世界仏教婦人会大会を開催。また国府別院^{こくぶ}で「恵^え信^{しん}尼^に700 回忌」法要がつとまる。

2006(平成 18)年

ハワイで第 13 回世界仏教婦人会大会開催。4000 人参加。

ところで仏教婦人会総連盟に加盟登録している全国の婦人会は 21 年度において 6,326 単位で推計 60 万人を擁する大所帯になっています。来年の親鸞聖人 750 回大遠忌の法要期間中の 5 月 16 日と 17 日に「世のなか安穏なれ」のスローガンのもとに第 14 回世界仏教婦人会大会を開催いたします。

今日の社会はさまざまな不安要素をたくさんかかえています。心の時代と叫ばれて久しくなりますが、むなしく感じるのは私だけでしょうか。もっとも影響力の強い教育の場である家庭が、その機能を十分に果たせず崩壊の危機にあります。核家族化が進み、お互いのコミュニケーションが希薄になっているからです。毎日の生活に追われて、「いのち」について語り合ったり、考えることも少なくなっているようです。こんなと

きだからこそ心の^{きずな}絆、共通の心の支えが必要なのではないのでしょうか。一人ひとりが

「念仏のみぞまこと」の教えにであえたことを深く味わい、いま私にできることはなに

か、という問いをもって、お聴聞^{ちようもん}に努めさせていただきたいと思います。

世界仏教婦人会大会の準備を進める中で、このご縁にであえる喜びが私たちを突き動かす力となっています。これからの仏教婦人会活動に求められるものは、ただ漫然と待つのではなくて、お聴聞を通して、信心をめぐまれその喜びをまわりの方々にお伝えし

で仲間づくりに励むことだと思います。まずは家族揃ってお仏壇にお参りし、さらにお寺に参拝することによって仏教婦人会総連盟のスローガンであります「念仏に生かされるよろこびを行動へ」を実践してまいりたいと思います。

もうすぐ2歳になる孫が来ると「ナムナムしよう」と私の手をひいてお仏壇の前にすわり、もみじのような手を合わせて一生懸命頭をさげます。お寺の初参式にも参拝させていただきました。お寺のお孫さんは、本堂でお勤めが始まる絶妙のタイミングで大

きな声で「イーミョウ」と唱えます。一緒にお参りしていた私は驚きました。^{しょうしんげ}正信偈の最初のところです。また、先日娘が「ゆりが寝る前に<キミィヨーライ>って不思議なことを言うのよ。何かしら」と聞くので、「正信偈のお勤めよ」と答える私。こんな会話が^か交わせることの幸せを味わい孫に教えられる毎日です。

この子たちが大きくなった時、世のなか安穏で一人ひとりがお念仏をよりどころにして阿弥陀さまの光の中で生かされている喜びが広がっていくように願ってやみません。

(仏教婦人会総連盟会長)